

授業科目等の概要

(医療専門課程歯科衛生士科) 平成31年度																	
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業コマ数	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
										講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○				化学・生物学	化学・生物学の基礎的事項について理解させ専門科目の理解を促す	1通	30	54.0	4	○			○		○	○	
○				英語学	歯科臨床において患者対応できる英会話の基礎を学ぶ	1通	30	54.0	4	○			○		○	○	
○				一般教養・日本語	社会人としての一般常識・日本語力を養う	1前	15	27.0	2	○			○		○	○	
○				ビジネス実務	チーム医療の担い手として社会人の対応法を身に着ける	1前	15	27.0	2	○			○		○	○	
○				解剖組織学・口腔組織学	人体の構造・機能および組織発生の基礎的事項を学ぶ。また歯および口腔に隣接する組織の構造を学ぶ。	1前	24	43.2	3	○			○		○	○	
○				生理学・口腔生理学	生体および口腔の機能・メカニズムを学ぶ	1後	24	43.2	3	○			○		○	○	
○				生化学・口腔生化学	身体を構成する物質について代謝や体内での役割を理解する。また歯・口腔を取り巻く器官の生化学について基本的事項を学ぶ	1後	12	21.6	1	○			○		○	○	
○				口腔解剖学・歯牙解剖学	口腔および歯牙の構造・メカニズム・特徴について学び、口腔の営みについて理解する	1前	26	46.8	3	○	△		○		○	○	
○				病理学・口腔病理学	全身の代表的病変について病態生理を理解し、さらに口腔領域の主な疾病について理解を深める	1通	24	43.2	3	○			○		○	○	
○				微生物学・口腔微生物学(臨床検査)	感染性疾患の原因である微生物について学び発症のメカニズムを理解し予防に繋げる。また口腔微生物の種類と生態および病院論について学び歯科治療に役立てる。	1後	24	43.2	3	○	△		○		○	○	
○				薬理学	薬物の作用機序生体内動態を理解すると同時に各種薬剤の特性を疾病と関連付けながら理解する	1後	15	27.0	2	○			○		○	○	
○				衛生学・地域保健学	健康と疾病の捉え方、健康の保持増進法、疾病予防法について学び地域保健活動の基礎的知識を身に着ける	2後	15	27.0	2	○			○		○	○	
○				口腔衛生学	口腔環境、口腔疾患の病因論・予防法等口腔衛生の基礎的事項を学ぶ	1後	24	43.2	3	○			○		○	○	
○				地域歯科保健学	地域歯科保健の基礎的事項を学び歯科衛生士としての展開法を理解する	2前	24	43.2	3	○			○		○	○	
○				衛生行政・社会福祉	衛生行政の概要および医療の動向を理解し、業務遂行にあたっての法的制度・社会保障・福祉制度についても理解する	2後	15	27.0	2	○			○		○	○	
○				歯科衛生士総論	歯科衛生士の業務について概要を理解させ資格取得に向けての意欲を高めると同時に医療倫理を理解させる	1前	15	27.0	2	○			○		○	○	
○				歯科臨床概論	歯科医療・歯科疾患の概要・歯科治療の概要を理解し医療人としての自覚を促す	1前	16	28.8	2	○			○		○	○	
○				保存修復学	歯の硬組織疾患に対する修復法・使用器材および歯科衛生士の担う役割を理解する	1後	16	28.8	2	○			○		○	○	
○				歯内療法学	歯髄疾患および根尖性歯周疾患に対する治療法・使用器材および歯科衛生士の担う役割を理解する	1後	16	28.8	2	○			○		○	○	
○				歯周病予防基礎	歯周疾患予防・治療の概要を理解し、歯科衛生士の担う役割を具体的にイメージさせる	1後	8	14.4	1	○			○		○	○	
○				歯周療法学	症例をとおり歯周治療の展開法を実感的に理解させると同時に歯周外科の概要および使用器材について理解を深める。	2前	12	21.6	1	○			○		○	○	
○				歯科補綴学	欠損補綴治療・使用器材および歯科衛生士の担う役割を理解する	2前	16	28.8	2	○			○		○	○	
○				口腔外科・歯科麻酔学	口腔外科領域における主な疾病の治療法、全身疾患との関連性および歯科衛生士の担う役割を理解する	2前	16	28.8	2	○			○		○	○	
○				小児歯科学	小児の成長発育・特性および小児治療法を理解し、歯科衛生士として患者管理・指導ができる知識を習得する	2後	16	28.8	2	○			○		○	○	
○				歯科矯正学	矯正治療の目的・治療法を理解し、歯科衛生士として患者管理・指導ができる知識を習得する	2後	16	28.8	2	○			○		○	○	
○				障害者歯科学	心身障害者の抱える各種疾患について理解し、歯科的問題を把握した対応法・指導法を習得する	2後	10	18.0	1	○			○		○	○	
○				高齢者歯科学	高齢者の身体的・精神的・社会的特徴を理解した口腔疾患の予防法・治療法を学ぶ。また、口腔ケアの展開法を習得する	2前	10	18.0	1	○			○		○	○	
○				歯科放射線学	歯科放射線に関する基礎知識を学び撮影法・読影法を習得する	2前	10	18.0	1	○	△	△	○		○	○	

○	う蝕予防処置法Ⅰ	フッ化物によるう蝕予防のメカニズムを学ぶ	1 後	6 14	10.8 25.2	2	○	○	○	○	○	○	○
		各種う蝕予防法の理解と技術の習得											
○	う蝕予防処置法Ⅱ	安全かつ効果的なう蝕予防処置法の立案と技術の習得	2 後	20	36.0	1	△	△	○	○	○	○	○
○	歯周病予防処置Ⅰ	歯周疾患予防処置法の基礎的事項の理解と基礎技術の習得	1 通	45	81.0	3	△		○	○	○	○	○
○	歯周病予防処置Ⅱ	歯周疾患予防処置の安全かつ効果的な技術の習得	2 通	45	81.0	3	△		○	○	○	○	○
○	歯周病予防処置Ⅲ	歯周疾患予防処置法の基礎的事項を再確認し、効率的な展開法を理解し、疾病予防・健康増進の担い手としての役割を理解する	3 前	15	27.0	1	△		○	○	○	○	○
○	歯科保健指導Ⅰ	歯科保健指導を展開できる基礎知識と技術の習得	1 通	45	81.0	3	○		○	○	○	○	○
○	歯科保健指導Ⅱ	多様化するニーズに対応できる歯科知識の習得と歯科衛生過程に沿った展開法の習得	2 通	45	81.0	3	○	○	○	○	○	○	○
○	歯科保健指導Ⅲ	各フィールドで歯科保健指導を実践できる知識・技術・展開法の再確認	3 通	15	27.0	1	△	○	○	○	○	○	○
○	栄養指導Ⅰ	心身の健康は食生活との関連性が高いことを認識し、栄養に関する基礎的事項および対象別指導ポイントを学ぶ	1 後	15	27.0	2	○		○			○	○
○	栄養指導Ⅱ	自分自身の食生活の振り返りも含め、現在の食を取巻く問題点を把握した指導ポイントの理解	2 前	8	14.4	1	○		○			○	○
○	歯科診療補助Ⅰ	歯科診療補助業務を実践するための基礎知識と基礎技術の習得	1 通	45	81.0	3	○		○	○	○	○	○
○	歯科診療補助Ⅱ	各処置に即した歯科診療補助を展開するための知識と技術の習得	2 通	45	81.0	3	△	○	○	○	○	○	○
○	歯科診療補助Ⅲ	歯科臨床で対応できる歯科診療補助の知識と技術の習得	3 通	15	27.0	1	△		○	○	○	○	○
○	歯科材料学	歯科診療の流れに即した効率の良い歯科診療補助を展開するための歯科材料に関する基礎知識と技術の習得	2 後	16	28.8	2	○	△	○			○	○
○	摂食嚥下・介護学	高齢者の身体的・精神的・社会的特徴を踏まえ、食物摂取や嚥下に関するメカニズムを十分理解した口腔ケア技術の習得。	2 後	26	46.8	3	○	△	○			○	○
○	看護学	看護の概念を理解し基本的看護技術の習得を図る	1 後	8	14.4	1	○	△	○			○	○
○	臨地臨床実習Ⅰ	歯科診療所の見学および高齢者施設でのボランティアをとおし、歯科治療の概要・衛生士業務の理解を深め、医療人としての自覚を促す	1 前	23	41.4	1			○		○	△	○
○	臨地臨床実習Ⅱ	歯科大学病院、歯科診療所での実習をとおし、歯科衛生士業務について実践的理解を深める	2 後	135	243.0	6			○		○	△	○
○	臨地臨床実習Ⅲ	総合病院歯科口腔外科、歯科診療所および臨地各フィールドでの実習をとおし、知識・技術の習得を図る	3 通	293	527.4	13			○		○	△	○
○	卒業研究	歯科診療所実習で担当した歯科保健指導症例について、歯科衛生過程に即したまとめ抄録作成および発表を行い理解を深める	3 通	40	72.0	2			○		○	○	○
○	情報処理Ⅰ	ワード、パワーポイントの基本的操作法を習得し歯科衛生士業務の展開に繋げる	1 後	15	27.0	1	△	○				○	○
○	情報処理Ⅱ	エクセルの基本的操作法を習得し歯科衛生士業務の展開に繋げる	2 前	15	27.0	1	△	○				○	○
○	コミュニケーションⅠ	自己と向き合い自己理解を深めると同時にコミュニケーションの基礎を身に着ける	1 通	20	36.0	2	△	○				○	○
○	コミュニケーションⅡ	医療人に求められるEQを理解し、患者様に寄り添えるコミュニケーション能力を身に着ける	2 前	10	18.0	1	△	○				○	○
○	カウンセリング	カウンセリングの基礎を学び、患者様との信頼関係を構築するためのカウンセリング技術を理解する	2 後	10	18.0	1	△	○				○	○
○	歯科医療保険事務	医療保険の基礎知識、診療録の記入・整理法、診療報酬請求事務について学ぶ	2 後	24	43.2	2	○	○			○	○	○
○	手話	聴覚障害について理解すると同時に手話によるコミュニケーション法を習得する	2 前	16	28.8	1	△	○				○	○
○	アロマセラピー	健康増進におけるアロマセラピー位置づけを理解し、アロマの知識・技術の学びをとおし人を思いやる心を育む	1 後	16	28.8	1	△	○				○	○
	国家試験対策	歯科衛生士国家試験に向けて補習講義・模擬試験棟を活用しながら取り組ませる	3 後	150	270.0						○	○	○
合計			科目	3376単位時間(126単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
修業年限3年以上で修得単位が126単位(授業時間数3,376時間)	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

学 科	授業科目	担当教員名	実務経験
歯科衛生士科	化学	桑島 文子	有
学 年	学 期	単位数(時間数)	
1	後期	2(30+2)	
授業の目的			
物質の性質・構造・変化・特性等の基礎的事項を学び、歯科臨床で扱う種々な材料の理解に役立てる。			
行動目標			
物質に興味を持ち、化学の不思議に目を向け、積極的に探求する姿勢を身につけると同時に、化学の基礎的事項を理解する。			
成績評価・検定			
講義終了時に行う試験の得点に、レポート・プレテストの結果及び日頃の授業態度等を10%以内で加味し評価する。(60点以上得点した者を合格とする)			
教科書・参考書		最新歯科衛生士教本「化学」(医歯薬出版)	
回数	月日(時間数)	授 業 内 容	
1	9月 3日(2)	物質とは 同素体 元素と原子 原子の構造	
2	9月10日(2)	原子番号と質量数 同位体 分子 原子の電子配置 価電子	
3	9月17日(2)	イオン式と名称 イオン化エネルギー 電子親和力	
4	9月24日(2)	元素の周期表 族の名称 物質量(原子量 分子量 式量)	
5	10月 1日(2)	molの定義 化学結合(イオン結合 共有結合)	
6	10月 8日(2)	気体(5つの法則) 空気は何から 気体を使う 笑気について	
7	10月15日(2)	パーセント濃度(HCL水溶液 消毒用エタノール オキシドール 百万分率)	
8	10月24日(2)	百万分率 モル濃度	
9	10月29日(2)	コロイドの性質・種類	
10	11月 5日(2)	酸・アルカリの特徴 アレニウス定義 電離式	
11	11月12日(2)	[H ⁺]と[OH ⁻]	
12	11月19日(2)	酸化と還元	
13	11月26日(2)	有機化合物の特徴・分類	
14	12月 3日(2)	示性試と官能基	
15	12月10日(2)	環式化合物 ヒトを作っているものは	
16	12月19日(2)	試験	

学 科	授業科目	担当教員名	実務経験
歯科衛生士科	生物学	桑嶋 文子	有
学 年	学 期	単位数(時間数)	
1	前期	2(30+2)	
授業の目的			
生命現象の不思議に眼を向け生物学の基礎を学び、生命の大切さを認識すると共に、細胞の構造 働きおよび生命現象に関する基本的知識を習得する。			
行動目標			
1. 生物体の成り立ちについて理解する。 2. 生物体の働きについて理解する。 3. 生物体の調整のメカニズムを理解する。 4. 生命の連続性、特に遺伝のメカニズムを理解する。 5. 生物の集団について理解する。 6. 生命の変遷について理解する。			
成績評価・検定			
講義終了時に行う試験の得点に、レポート・プレテストの結果及び日頃の授業態度等を10%以内で加味し評価する(60点以上得点した者を合格とする)			
教科書・参考書		最新歯科衛生士教本「生物学」(医歯薬出版)	
回数	月日(時間数)	授 業 内 容	
1	4月9日(2)	生物学とは 生命を作る物質 細胞を作る物質 タンパク質の構造 核酸	
2	4月16日(2)	細胞の構造と特徴 細胞の活動 酵素の特徴	
3	4月23日(2)	ATP 細胞呼吸 運動 分泌	
4	5月7日(2)	組織と器官	
5	5月17日(2)	消化器官系・循環器官系・呼吸器官系・泌尿器官系の構造と働き	
6	5月21日(2)	生殖の方法 減数分裂と体細胞分裂の比較 細胞の一生と個体の成り立ち	
7	5月28日(2)	減数分裂 ヒトの発生 発生と分化のしくみ	
8	6月4日(2)	遺伝と遺伝子 耳垢の遺伝 血液型の遺伝	
9	6月11日(2)	生命をつくる仕組み 遺伝子の本体 遺伝子の形質支配	
10	6月18日(2)	刺激の受容と反応 興奮の伝達 目と耳の構造と特徴	
11	6月25日(2)	神経系 脳の構造と働き ホルモン	
12	7月2日(2)	ホメオスタシス 体内時計とバイオリズム 血液の組成と働き 血液凝固	
13	7月9日(2)	動物の行動(走性 反射と無条件反射 本能行動・学習行動・刷り込み 知能による行動)	
14	7月16日(2)	生物の集団	
15	7月23日(2)	自然と人間 生態系 エネルギーの流れ 生物濃縮	
16	7月29日(2)	試験	

学 科	授業科目	担当教員名	実務経験
歯科衛生士科	英語学	ダイス・ヤマカワ	有
学 年	学 期	単位数(時間数)	
1	前・後期	4(62)	
授業の目的			
歯科診療所を訪れる外国人の患者さんとコミュニケーションが図れるように、基礎的な英会話を身につける。			
行動目標			
1. 基礎的な英会話を身につける。 2. 患者さんとの基礎的な英会話(受付での会話等)を身につける。 3. 歯科衛生学に関連する専門用語のうち、代表的なものを理解し列挙できる。			
成績評価・検定			
講義終了時に行う試験(筆記及び口述)の得点に、レポート・プレテストの結果及び日頃の授業態度等を10%以内で加味し評価する。(60点以上得点した者を合格とする)			
教科書・参考書		オリジナル教本	最新歯科衛生士教本「歯科英語」(医歯薬出版) CDレコーダー
回数	月日(時間数)	授 業 内 容	
1	4月9日(2)	クラスの説明 自己紹介 オリジナル教材pg4-6	
2	4月16日(2)	オリジナル教材pg4-6	
3	4月23日(2)	オリジナル教材pg7-9	
4	5月7日(2)	オリジナル教材pg9,10	
5	5月13日(2)	オリジナル教材pg11	
6	5月21日(2)	オリジナル教材pg12	
7	5月28日(2)	小テスト Review オリジナル教材pg13	
8	6月4日(2)	オリジナル教材pg14	
9	6月11日(2)	オリジナル教材pg15	
10	6月18日(2)	オリジナル教材pg15	
11	6月25日(2)	オリジナル教材pg17	
12	7月2日(2)	オリジナル教材pg15,16,17,	
13	7月9日(2)	オリジナル教材pg10-18	
14	7月16日(2)	オリジナル教材pg11-19 歯科英語:pg15-21	
15	7月23日(2)	前期試験	
16	9月24日(2)	オリジナル教材pg20 歯科英語:pg 54-55	
17	10月1日(2)	オリジナル教材pg15,16,17,20,21 歯科英語:pg60,61	
18	10月8日(2)	オリジナル教材pg22 歯科英語:pg 62-63	
19	10月15日(2)	オリジナル教材pg16,17,19,22,23,24 歯科英語:pg 89-90	
20	10月29日(2)	オリジナル教材pg25 歯科英語:pg 95,96	
21	11月5日(2)	オリジナル教材pg20,21,22,23,24	
22	11月12日(2)	オリジナル教材pg22,23,24,25 歯科英語:111-112	
23	11月19日(2)	歯科英語:pg 67,68,69	
24	11月26日(2)	オリジナル教材28,29 歯科英語:pg73	
25	12月3日(2)	オリジナル教材24-27 歯科英語:pg 73	
26	12月10日(2)	試験 Review	
27	12月17日(2)	オリジナル教材18-23	
28	1月7日(2)	オリジナル教材8,17,22,28-29	
29	1月14日(2)	試験 Review	
30	1月21日(2)	リスニング練習	
31	1月28日(2)	年度末試験	

学 科	授業科目	担当教員名	実務経験
歯科衛生士科	ビジネス実務	小林 千恵	有
学 年	学 期	単位数(時間数)	
1	前期	2(30)	
授業の目的			
チーム医療の担い手として活躍するために、社会人としての常識を踏まえた対応を習得する。			
行動目標			
1. 社会の仕組みを理解する。 2. 社会人としての基本的マナーを身につける。 3. 円滑なコミュニケーション能力を身につける。 4. 社会人としての、言葉遣いを身につける。 5. 社会人としての基本的礼儀を身につける 6. 礼状の書き方を習得する			
成績評価・検定			
講義終了時に行う試験の得点に、レポート・プレテストの結果及び日頃の授業態度等を10%以内で加味し評価する。(60点以上得点した者を合格とする)			
教科書・参考書		ビジネス能力検定3級ジョブパス公式テキスト2016年(日本能率協会マネジメントセンター)	
回数	月日(時間数)	授 業 内 容	
1	4月10日(2)	専門学校生に求められるもの	
2	4月17日(2)	何のために働くの？	
3	4月24日(2)	仕事の基本となる8つの意識	
4	5月 8日(2)	職場のコミュニケーション	
5	5月15日(2)	ビジネスマナーの基本	
6	5月22日(2)	指示の受け方と報告・連絡・相談	
7	5月29日(2)	お礼状の書き方	
8	6月 5日(2)	話し方の基本	
9	6月14日(2)	感じの良い言葉遣い	
10	6月19日(2)	敬語の使い方	
11	6月26日(2)	来客対応	
12	7月 3日(2)	面談の基本マナー	
13	7月10日(2)	訪問のマナー	
14	7月17日(2)	電話対応	
15	7月24日(2)	試験	

学 科		授業科目	担当教員名	実務経験
歯科衛生士科		解剖組織学	島田 涉	有
学 年		学 期	単位数(時間数)	
1		前・後期	2(32+2)	
授業の目的				
人体の構造を機能と関連づけながら学び、ヒトの生体を理解する。また、組織発生の基本的事項を学び、さらなる理解を深める。				
行動目標				
1. 人体各部の名称・構造が理解できる。 2. 各系統別の機能・構造・種類が理解できる。 3. 組織・発生の基本的事項が理解できる。				
成績評価・検定				
講義終了時に行う試験の得点に、レポート・プレテストの結果及び日頃の授業態度等を10%以内で加味し評価する(60点以上得点した者を合格とする)				
教科書・参考書		最新歯科衛生士教本「解剖学・組織発生学・生理学」(医歯薬出版) 人体骨格模型 色鉛筆 ファイル		
回数	月日(時間数)	授 業 内 容		
1	4月12日(2)	解剖学で学ぶこと 細胞の構造と機能、増殖と寿命		
2	4月26日(2)	組織(上皮 支持 筋 神経)		
3	5月10日(2)	神経系 大脳の外景と機能局在		
4	5月17日(2)	末梢神経系(脳神経 脊髄神経 自律神経)		
5	5月24日(2)	感覚器(眼球 耳)		
6	6月 7日(2)	心臓の構造 体循環と肺循環		
7	6月14日(2)	心臓の内景と大血管(スケッチ) 血管系		
8	6月21日(2)	リンパ系		
9	6月28日(2)	骨格系(骨の機能 構造 形態 上肢骨と下肢骨 脊椎 胸郭)		
10	7月 5日(2)	筋の形状と分類 体の各部位の筋		
11	7月12日(2)	泌尿器 腎臓		
12	7月19日(2)	内分泌器官(視床下部 下垂体 甲状腺 副甲状腺)		
13	7月 26日(2)	内分泌器官(副腎 膵臓 卵巣 精巣 松果体)		
14	9月 6日(2)	呼吸器系(鼻腔 咽頭 喉頭 気管 気管支 肺)		
15	9月13日(2)	消化器系(口腔 咽頭 食道 胃 小腸 大腸 直腸)		
16	9月20日(2)	消化器系(肝臓 胆嚢 膵臓)		
17	10月 8日(2)	試験		

学 科	授業科目	担当教員名	実務経験
歯科衛生士科	病理学	北島 晴比古	有
学 年	学 期	単位数(時間数)	
1	前期	1.5(24+2)	
授業の目的			
全身の代表的病変についてそのメカニズムや病態生理を理解し、口腔病理学に繋げ、歯科臨床に役立てる。			
行動目標			
1. 病因論について理解する。 2. 遺伝性疾患について理解する。 3. 循環障害について理解する。 4. 代謝障害について理解する。 5. 増殖と修復について理解する。 6. 炎症と免疫応答異常について理解する。 7. 腫瘍について理解する。			
成績評価・検定			
講義終了時に行う試験の得点に、レポート・プレテストの結果及び日頃の授業態度等を10%以内で加味し評価する(60点以上得点した者を合格とする)			
教科書・参考書		最新歯科衛生士教本「病理学・口腔病理学」(医歯薬出版) プリント PC プロジェクター	
回数	月日(時間数)	授 業 内 容	
1	5月 8日(2)	病理学序論と病因論	
2	5月15日(2)	遺伝性疾患と奇形	
3	5月22日(2)	循環障害	
4	5月29日(2)	循環障害	
5	6月 5日(2)	小テスト 代謝障害と退行性病変	
6	6月12日(2)	代謝障害と退行性病変	
7	6月19日(2)	増殖と修復	
8	6月26日(2)	小テスト 炎症と免疫応答異常	
9	7月 3日(2)	炎症と免疫応答異常	
10	7月10日(2)	腫瘍1	
11	7月17日(2)	腫瘍2	
12	7月24日(2)	まとめ	
13	7月30日(2)	試験	

学 科	授業科目	担当教員名	実務経験
歯科衛生士科	口腔病理学	北島 晴比古	有
学 年	学 期	単位数(時間数)	
1	後期	1.5(24+2)	
授業の目的	病理学で学んだ基本的事項をベースに、口腔領域の主な疾患について理解する。		
行動目標	口腔領域の主な疾病について、病因論・メカニズムを理解する。		
成績評価・検定	講義終了時に行う試験の得点に、レポート・プレテストの結果及び日頃の授業態度等を10%以内で加味し評価する(60点以上得点した者を合格とする)		
教科書・参考書	最新歯科衛生士教本「病理学・口腔病理学」(医歯薬出版) プリント PC プロジェクター		
回数	月日(時間数)	授 業 内 容	
1	9月4日(2)	,歯の発育異常	
2	9月11日(2)	歯の損傷と着色・付着物	
3	9月18日(2)	う蝕の病院論・分類	
4	9月25日(2)	小テスト 象牙質・歯髄複合体の病変	
5	10月2日(2)	歯周組織の病態	
6	10月9日(2)	口腔粘膜の病変	
7	10月16日(2)	小テスト 口腔領域の嚢胞と腫瘍	
8	10月23日(2)	口腔癌	
9	10月30日(2)	顎骨の病変	
10	11月6日(2)	小テスト 唾液腺の病変	
11	11月13日(2)	口腔領域の奇形	
12	11月20日(2)	口腔組織の加齢変化	
13	12月19日(2)	試験	

学 科	授業科目	担当教員名	実務経験
歯科衛生士科	微生物学・臨床検査	島田 涉	有
学 年	学 期	単位数(時間数)	
1	後期	2(24+8+2=34)	
授業の目的			
感染性疾患の原因である微生物について基礎的事項を学び、発症のメカニズムを理解し、予防に役立てる。			
行動目標			
1、微生物と人の共生関係について理解できる。 2、微生物の一般的性状、各微生物の特徴が理解できる。 3、臨床検査の実習を通し、微生物について実感的な理解を促し、手洗いの必要性を理解する。 4、顕微鏡観察の方法を理解する。			
成績評価・検定			
講義終了時に行う試験の得点に、レポート・プレテストの結果及び日頃の授業態度等を10%以内で加味し評価する(60点以上得点した者を合格とする)			
教科書・参考書		最新歯科衛生士教本「微生物学」(医歯薬出版) プリント 顕微鏡 細菌培養検査キット	
回数	月日(時間数)	授 業 内 容	
1	10月11日(2)	微生物とは? 微生物の大きさ 耐性菌と院内感染 常在菌の役割	
2	10月18日(2)	感染(感染と感染症 不顕性感染 易感染性宿主 日和見感染 院内感染 経路感染)	
3	11月 1日(2)	垂直感染 菌の形態 グラム染色	
4	11月 8日(2)	菌の発育に関わる条件 外毒素と内毒素 グラム陽性球菌	
5	11月15日(2)	グラム陽性桿菌	
6	11月22日(2)	グラム陰性桿菌	
7	11月29日(2)	感染症と毒素型 歯周病原性細菌 細菌・マイコプラズマ・リケッチア・クラミジア・ウイルスの相違点	
8	12月 6日(2)	ウイルスとウイルス感染症	
9	12月13日(2)	肝炎ウイルス	
10	1月17日(2)	免疫細胞の種類と役割	
11	1月24日(2)	液性免疫と細胞性免疫 抗体について	
12	1月29日(2)	臨床検査1(手指の細菌培養検査)	基礎
13	1月31日(2)	消毒と滅菌 培養実験観察	(基礎)
14	2月 5日(2)	臨床検査2(生理的機能検査と検体検査 血液検査)	基礎
15	2月 7日(2)	臨床検査2(顕微鏡での血液細胞観察)	基礎
16	2月14日(2)	まとめ	
17	2月18日(2)	試験	

学 科	授業科目	担当教員名	実務経験
歯科衛生士科	薬理学	桜井 浩	有
学 年	学 期	単位数(時間数)	
1	後期	2(30+2)	
授業の目的			
「薬とは何なのか」「なぜ効くのか」この二つの疑問について論理的に理解する。 加えて代表的な薬剤の特性を理解する。			
行動目標			
1. 薬物の作用機序を理解し、説明できる。 2. 薬物の生体内動態(吸収、分布、代謝、排泄)を理解し、説明できる。 3. 各々の薬の特性を理解し、各疾患と関連付けながら理解する。			
成績評価・検定			
講義終了時に行う試験の得点に、レポート・プレテストの結果及び日頃の授業態度等を10%以内で加味し評価する。 (60点以上得点した者を合格とする)			
教科書・参考書		最新歯科衛生士教本「薬理学 第2版」(医歯薬出版)	
回数	月日(時間数)	授 業 内 容	
1	9月 4日(2)	薬物の定義と分類	
2	9月11日(2)	薬物の保存 作用 用量	
3	9月18日(2)	薬物の作用メカニズム 受動拡散 解離定数	
4	9月25日(2)	薬物動態、薬物投与方法	
5	10月 2日(2)	薬物の投与方法 投与方法による作用の違い 生物学的利用法 薬物耐性・依存・併用作用	
6	10月 9日(2)	薬物に影響を及ぼす要因 薬の副作用 歯科領域における薬物の副作用	
7	10月16日(2)	中枢神経系	
8	10月23日(2)	中枢神経系と薬	
9	10月30日(2)	末梢神経系と薬	
10	11月 6日(2)	高血圧治療薬 不整脈治療薬 心不全治療薬 狭心症治療薬 呼吸器系治療薬 高脂血症治療薬	
11	11月13日(2)	去痰薬 血液凝固薬 止血薬 抗血栓薬 抗貧血薬	
12	11月20日(2)	抗貧血薬 炎症及び抗炎症薬	
13	11月27日(2)	ビタミン ホルモン	
14	12月 4日(2)	代謝性疾患治療薬 感染症と薬	
15	12月11日(2)	腫瘍及び抗腫瘍薬 歯科治療薬	
16	12月20日(2)	試験	

学 科	授業科目	担当教員名	実務経験
歯科衛生士科	衛生・地域保健学	小林 良清	有
学 年	単位数(時間数)		
2	前期・後期	2(30+2)	
授業の目的			
健康と疾病のとらえ方、健康の保持増進法、疾病予防法について学び、地域保健活動の基礎的知識を身につける。			
行動目標			
1. 衛生学の基本的事項について理解し、広い視野から地域保健活動を捉えることができる。 2. 人口動態に関する基本的事項が理解できる。 3. 環境保全に関する基本的事項が理解できる。 4. 疫学に関する基本的事項が理解できる。 5. 感染症に関する基本的事項が理解できる。 6. 食品衛生に関する基本的事項が理解できる。 7. 母子保健に関する基本的事項が理解できる。 8. 学校保健に関する基本的事項が理解できる。 9. 成人・老人保健に関する基本的事項が理解できる。 10. 産業保健に関する基本的事項が理解できる。 11. 精神保健に関する基本的事項が理解できる。			
成績評価・検定			
講義終了時に行う試験の得点に、レポート・プレテストの結果及び日頃の授業態度等を10%以内で加味し評価する (60点以上得点した者を合格とする)			
教科書・参考書		最新歯科衛生士教本「保健生態学」「保健情報統計学」	
回数	月日(時間数)	授 業 内 容	
1	7月16日(2)	総論(定義 健康の概念 ヘルスプロモーション)	
2	7月23日(2)	健康推進対策 予防医学の概念 人口に関する統計	
3	9月 3日(2)	人口に関する統計 人口動態調査 生命表	
4	9月10日(2)	環境と健康の概念 生活環境 廃棄物処理 環境保全	
5	9月17日(2)	環境保全 疫学の定義及び概要 疫病、異常の発生要因	
6	9月24日(2)	疫学研究の方法論	
7	10月 1日(2)	感染症(感染と発病 感染の三大要因 感染予防 おもな感染症の動向と予防)	
8	10月 7日(2)	おもな感染症の動向と予防 国民栄養の現状(健康づくり資料)	
9	10月15日(2)	国民栄養の現状 食品衛生 地域保健の概念	
10	10月23日(2)	母子保健(意義・保健統計・母性保健管理・小児保健管理・母子保健対策)	
11	10月29日(2)	学校保健(意義・活動と組織 学校保健活動の推進 食育)	
12	11月 5日(2)	成人・老人保健(現状・保健活動)健康活動と公衆衛生	
13	11月12日(2)	産業保健(概念 職業性疫病 産業保健管理 産業保健活動)	
14	11月19日(2)	精神保健(意義・分類・心の健康と障害 ライフサイクル 精神保健対策)	
15	11月26日(2)	まとめ・復習	
16	12月16日(2)	試験	

学 科	授業科目	担当教員名	実務経験
歯科衛生士科	口腔衛生学 I	小出 浩貴	有
学 年	学 期	単位数(時間数)	
1	後期	3(48+2)	
授業の目的			
口腔環境、口腔疾患の病院論・予防法等口腔衛生の基礎的事項について学び、これから展開される専門的科目の理解を促す。また、歯科予防処置、歯科保健指導、歯科診療補助の業務を展開するための知識の基礎を身につける。			
行動目標			
1. 口腔衛生の意義を認識し、歯・口腔の健康について説明できる。 2. 歯・口腔の汚れ、清掃法について理解し、保健指導の基礎とする。 3. う蝕のメカニズム及び予防法について説明できる。 4. 歯周疾患のメカニズム及び予防法について説明できる。			
成績評価・検定			
講義終了時に行う試験の得点に、レポート・プレテストの結果及び日頃の授業態度等を10%以内で加味し評価する。(60点以上得点した者を合格とする)			
教科書・参考書		最新歯科衛生士教本「保健生態学」医歯薬出版	
回数	月日(時間数)	授 業 内 容	
1	9月 2日(4)	口腔衛生学の意義、口腔衛生学概論 歯と口腔の構造	
2	9月 9日(4)	歯と口腔の健康 歯・口腔の発生発育	
3	9月20日(4)	歯・口腔の健康 成長と発育・機能 口腔と全身の関係	
4	9月27日(4)	歯・口腔付着物・沈着物 口腔清掃 う蝕の疫学	
5	9月30日(4)	歯周疾患の疫学 その他の疾患の疫学 フッ素の性質・応用法	
6	10月 7日(4)	フッ素の応用法 歯周炎(病態～予防法)	
7	11月11日(4)	その他の疾患(口腔癌 不正咬合 顎関節症) ライフステージ毎の口腔管理	
8	11月18日(4)	復習①	
9	11月25日(4)	復習② 放射線 染色体・DNAの働き	
10	12月 2日(4)	全身と口腔の関わり その他の疾患	
11	12月 9日(4)	演習(口頭試問形式)	
12	12月16日(4)	総復習	
13	12月20日(2)	試験	

学 科	授業科目	担当教員名	実務経験
歯科衛生士科	社会福祉	畠山 仁美	有
学 年	学 期	単位数(時間数)	
2	後期	1(14+2)	
授業の目的			
急速に変化する社会保障・福祉制度について理解を深め、社会のニーズをふまえた対応をする為の基礎知識を習得する。			
行動目標			
1. 各対象に対する社会保障・福祉制度の概要を理解する。 2. 社会福祉分野での歯科衛生士業務の実態を理解する。 3. 介護・福祉の対象となる方について理解を深め対応法を学ぶ。			
成績評価・検定			
講義終了時に行う試験の得点に、レポート・プレテストの結果及び日頃の授業態度等を10%以内で加味し評価する(60点以上得点した者を合格とする)			
教科書・参考書		最新歯科衛生士教本「歯科衛生士と法律/第3版」(医歯薬出版)	
回数	月日(時間数)	授 業 内 容	
1	10月31日(2)	社会保障とは 喪失体験	
2	11月 7日(2)	社会保険制度 コミュニケーション技術(ロールプレ)	
3	11月14日(2)	医療保険制度 コミュニケーション技術(ロールプレ)	
4	11月21日(2)	介護保険制度概要 小規模多機能型施設DVD視聴	
5	11月28日(2)	介護保険制度(認定 専門職) 年金保険制度 認知症高齢者と家族DVD視聴「ハルさんの物語」	
6	12月 5日(2)	労働保険制度 社会福祉(福祉六法～生活保護) 認知症高齢者と家族DVD視聴「ハルさんの物語第2部」	
7	12月12日(2)	児童と家庭の福祉制度と法規 障害者自立支援法 障害者差別解消法 老人福祉法 認知症啓発DVD 「一人の心を見つめるケア」	
8	12月17日(2)	試験	

学 科	授業科目	担当教員名	実務経験
歯科衛生士科	口腔外科学・歯科麻酔学	横林 敏夫	有
学 年	学 期	単位数(時間数)	
2	前期	2(34+2)	
授業の目的			
口腔外科領域における主な疾病について病態・治療法を理解するとともに、全身疾患との関連性についても理解を深め、口腔外科における歯科衛生士の役割を理解する。			
行動目標			
1. 口腔外科領域の主な疾患について理解する。 2. 口腔外科治療の流れを理解する。 3. 口腔外科小手術について理解する。 4. 歯科口腔外科領域の麻酔について理解する。 5. 救急蘇生法について理解する。 6. 滅菌と消毒について基礎的知識を身につけて対応できる。 7. 口腔外科領域で使用する器材・薬剤について概要を理解できる。 8. 歯科麻酔学、救急蘇生法の概要を理解する。 9. 口腔外科における歯科衛生士の役割を理解する。			
成績評価・検定			
講義終了時に行う試験の得点に、レポート・プレテストの結果及び日頃の授業態度等を10%以内で加味し評価する(60点以上得点した者を合格とする)			
教科書・参考書		最新歯科衛生士教本「口腔外科・麻酔学」(医歯薬出版) PC プロジェクター	
回数	月日(時間数)	授 業 内 容	
1	4月 8日(2)	口腔領域の発育異常と奇形変形	
2	4月15日(2)	口腔領域の発育異常	
3	4月22日(2)	口腔領域の損傷	
4	4月26日(2)	口腔粘膜疾患	
5	5月10日(2)	口腔領域の炎症	
6	5月13日(2)	口腔領域の嚢胞—顎骨内に発生する嚢胞	
7	5月20日(2)	口腔領域の嚢胞—軟組織に発生する嚢胞	
8	5月27日(2)	口腔領域の腫瘍—軟組織に発生する良性腫瘍	
9	6月 3日(2)	口腔領域の腫瘍—悪性腫瘍 腫瘍類似疾患	
10	6月10日(2)	顎関節疾患	
11	6月17日(2)	唾液腺疾患	
12	6月24日(2)	口腔領域の神経性疾患	
13	6月28日(2)	血液疾患 口腔外科の小手術	
14	7月 1日(2)	口腔外科小手術 歯科麻酔	
15	7月 8日(2)	歯科麻酔(局所麻酔 全身麻酔)	
16	7月12日(2)	歯科治療時における全身的合併症	
17	7月19日(2)	救急蘇生法	
18	7月29日(2)	試験	

学 科	授業科目	担当教員名	実務経験
歯科衛生士科	歯科矯正学	竹内 誠	有
学 年	学 期	単位数(時間数)	
2	後期	2(32+2)	
授業の目的			
矯正治療の目的や不正咬合の弊害を理解し、頭部顎顔面領域並びに歯列の成長発育についての知識を身につける。また、矯正治療における歯科衛生士の担う役割を認識し、患者管理・指導ができる基礎知識を身につける。			
行動目標			
1. 頭部・顎顔面の成長発育について理解する。 2. 咬合及び不正咬合について理解し、さらにその原因について理解を深める。 3. 様々な口腔習癖について理解する。 4. 矯正治療の生物力学について理解を深める。 5. 矯正治療における診査診断について理解する。 6. 矯正装置及び治療法さらに保定について理解する。 7. 矯正治療に使用する器材について理解する。 8. 矯正治療における歯科衛生士の役割について理解する。 9. 矯正治療における患者管理及び指導のポイントを理解する。			
成績評価・検定			
講義終了時に行う試験の得点に、レポート・プレテストの結果及び日頃の授業態度等を10%以内で加味し評価する(60点以上得点した者を合格とする)			
教科書・参考書		最新歯科衛生士教本「歯科矯正学」(医歯薬出版) 矯正用傷器材 PC プロジェクター	
回数	月日(時間数)	授 業 内 容	
1	10月10日(4)	歯科矯正治療総論(治療の実際 目的・流れ・必要性、利益とリスク)	
2	10月17日(4)	成長発育(身体の成長発育、頭蓋・顎顔面の成長発育、歯・歯列の成長発育、口腔機能の発達)	
3	10月24日(4)	正常咬合と不正咬合(咬合とは、正常咬合の概念 下顎位と咬合位 下顎運動 個々の歯の位置異状、歯列弓の異状、上下歯列弓関係の不正、不正咬合状態)	
4	11月31日(4)	不正咬合の分類・原因・予防 歯科矯正治療と力 歯の移動と固定 歯の移動と組織反応	
5	11月 7日(4)	歯の移動病理 矯正力の作用時間 歯の移動様式 矯正力と顎整形力 保定 矯正装置(可撤式装置)	
6	11月14日(4)	矯正装置(固定式装置 機能的矯正装置 拡大装置 顎外固定装置 口腔習癖除去装置 保定装置)	
7	11月21日(4)	矯正歯科診断 矯正歯科治療における診断 診断に必要な検査 症例分析(模型分析 セファロ分析) 非拔牙治療と拔牙治療	
8	11月 28日(4)	矯正歯科用器具と取扱い 歯科矯正用材料と使用方法 まとめ	
9	12月18日(2)	試験	

学 科	授業科目	担当教員名	実務経験
歯科衛生士科	う蝕予防処置	笠井 宏二	有
学 年	学 期	単位数	
1	後期	1(12+2)	
授業の目的			
フッ化物による齲蝕予防法について基本的事項を理解し、技術の習得に繋げる。			
行動目標			
1. フッ化物についての基本的知識を学び、各う蝕予防処置法の効果・メカニズム・施術法を理解する。 2. フッ化ジアンミン銀、小窩裂溝填塞法についての基本的事項を理解する。			
成績評価・検定			
講義終了時に行う試験の得点に、レポート・プレテストの結果及び日頃の授業態度等を10%以内で加味し評価する(60点以上得点した者を合格とする)			
教科書・参考書		「歯科衛生士のためのう蝕予防処置法」(医歯薬出版) プロジェクター	
回数	月日(時間数)	授 業 内 容	
1	11月28日(4)	フッ化物によるう蝕予防(予防効果、方法、種類、管理方法)	
2	12月 5日(4)	フッ化物によるう蝕予防(中毒量の計算、メンテナンス)	
3	12月12日(4)	硝酸銀(フッ化ジアンミン銀)塗布法 小窩裂溝填塞法	
5	2月19日(2)	試験	

学 科	授業科目	担当教員名	実務経験
歯科衛生士科	う蝕予防処置Ⅱ 臨地臨床実習Ⅱ	松井馨子	有
学 年	学 期	単位数(時間数)	
2	後期	2(38+2+実習10=50)	
授業の目的			
安全かつ効果のあるう蝕予防処置を行うために、効果的なう蝕予防法を計画することができる知識を身に付け、う蝕予防処置の的確な技術を習得する。			
行動目標			
1. う蝕予防法を述べることができる。 2. う蝕予防処置の方法を列挙できる。 3. フッ化物局所塗布の集団応用についての知識を身につける。 4. フッ化物局所塗布の集団応用法を立案し実施する。 5. 小児へのフッ化物局所塗布を行うことができる。			
成績評価・検定			
講義終了時に行う試験の得点に実習の実技評価も加味し、総合的に評価する。 (60点以上得点した者を合格とする)			
教科書・参考書		最新歯科衛生士教本「歯科予防所論・歯科保健指導論」(医歯薬出版) 「歯科衛生士のためのう蝕予防処置法」(医歯薬出版)	
回数	月日(時間数)	授 業 内 容	
1	9月6日(4)	う蝕予防処置基礎知識復習	
2	9月11日(4)	う蝕予防処置の集団応用基礎知識	
3	9月17日(2)	う蝕予防処置の集団応用基礎知識 フッ化物塗布集団応用の計画立案	
4	9月24日(2)	う蝕予防処置の集団応用基礎知識 フッ化物塗布集団応用の計画立案	
5	10月2日(4)	フッ化物局所塗布法の集団応用法の演習	
6	10月9日(4)	フッ化物局所塗布法の集団応用法の演習 / 幼稚園実習オリ	
7	10月16日(4)	幼稚園見学実習	
8	10月21日(4)	フッ化物塗布相互実習	ユニット
9	10月30日(4)	小児へのフッ化物塗布応用法の計画・準備品 (幼稚園実習計画・準備品リスト作製)	
10	11月5日(4)	小児へのフッ化物塗布法の演習(幼稚園実習ロールプレ)	ユニット
11	11月6日(2)	幼稚園実習準備	基礎・ユニット
12	11月12日(4)	幼稚園実習準備	基礎・ユニット
13	11月13日(6)	幼稚園実習	
14	11月20日(2)	試験	

学 科	授業科目	担当教員名	実務経験
歯科衛生士科	歯周病予防処置 I	竹内麻莉	有
学 年	学 期	単位数(時間数)	
1	前期	1(48)	
授業の目的			
疾病予防、健康増進に果たす歯科予防処置の効果を十分認識し、効果的な施術を行うための基礎的な知識と技術を習得する。			
行動目標			
1. 歯石除去の流れをイメージできる。 2. 歯石除去に際しての位置関係を習得する。 3. ミラーテクニックを習得する。 4. 歯石除去に際しての観察法を理解する。 5. 歯石沈着状態の把握ができる。(エキスポローイング) 6. 歯周ポケット観察法を習得する。(プロービング)			
成績評価・検定			
講義終了時に行う試験の得点に実習の実技評価も加味し、総合的に評価する。 (60点以上得点した者を合格とする)			
教科書・参考書		最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」(医歯薬出版)	
回数	月日(時間数)	授 業 内 容	
1	4月12日(4)	歯石除去とは 器具確認 基礎知識(歯・歯周組織)	基礎
2	4月18日(2)	マネキンの扱い法 位置関係 身だしなみ	基礎
3	4月26日(4)	ミラー基本操作法 上下顎操作法 / スケーリングの流れ 基礎知識(付着物・沈着物)	基礎
4	5月10日(4)	探針基本的操作法(把持法 運動)	基礎
5	5月13日(2)	探針基本的操作法	基礎
6	5月20日(2)	探針部位別操作法	基礎
7	5月24日(2)	探針部位別操作法	基礎
8	6月 6日(2)	探針部位別操作法	基礎
9	6月11日(2)	プロービング目的 基本的操作法	基礎
10	6月21日(4)	プロービング部位別操作法	基礎
11	6月25日(2)	プロービング部位別操作法	基礎
12	6月28日(2)	プロービング部位別操作法	基礎
13	7月 1日(4)	口腔診査相互実習1(エキスポローリング)	ユニット
14	7月 8日(4)	口腔診査相互実習2(エキスポローリング)	ユニット
15	7月19日(4)	口腔診査相互実習3(プロービング)	ユニット
16	7月26日(4)	口腔診査相互実習4(プロービング)	ユニット

学 科	授業科目	担当教員名	実務経験
歯科衛生士科	歯周病予防処置 I	竹内 麻莉	有
学 年	学 期	単位数(時間数)	
1	後期	2(78+2=80)	
授業の目的			
疾病予防、健康増進に果たす歯科予防処置の効果を十分認識し、効果的な施術を行うための基礎的な知識と技術を習得する。			
行動目標			
1. シックルスクレーラー・キュレットスクレーラーの操作法を習得する。 2. 歯石除去に際しての観察法を習得する。 3. 歯石沈着状態の把握ができる。(エクスプローイング) 4. 歯周ポケット観察法を習得する。(プロービング) 5. 歯面研磨法及びPMTCTechniqueを習得する。 6. シックルスクレーラー・キュレットスクレーラーのシャープニング法を習得する。			
成績評価・検定			
講義終了時に行う試験の得点に実習の実技評価も加味し、総合的に評価する。 (60点以上得点した者を合格とする)			
教科書・参考書		最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」(医歯薬出版)	
回数	月日(時間数)	授 業 内 容	
1	9月 6日(4)	スクレーラーの名称・用途・種類 シックルスクレーラーの基本的操作法・模型実習	基礎
2	9月10日(2)	シックルスクレーラー マネキン実習	基礎
3	9月13日(2)	シックルスクレーラー マネキン実習	基礎
4	9月17日(2)	シックルスクレーラー マネキン実習	基礎
5	9月24日(2)	シックルスクレーラー シャープニング法	基礎
6	10月 4日(4)	キュレットスクレーラーの基本的操作法・模型実習	基礎
7	10月11日(4)	キュレットスクレーラー マネキン実習	基礎
8	10月17日(4)	キュレットスクレーラー マネキン実習	基礎
9	11月 1日(4)	キュレットスクレーラー マネキン実習	基礎
10	11月 8日(4)	キュレットスクレーラーマネキン実習 / シャープニング法 / 相互実習オリ	基礎
11	11月15日(4)	スケーリング 相互実習1(口腔診査)	ユニット
12	11月22日(4)	スケーリング 相互実習2(下顎前歯)	ユニット
13	11月27日(4)	スケーリング 相互実習3(上顎前歯)	ユニット
14	12月 5日(4)	スケーリング 相互実習4(下顎前歯)	ユニット
15	12月12日(4)	スケーリング 相互実習5(上顎前歯)	ユニット
16	12月18日(4)	PMTCTechniqueの基礎知識 模型実習	基礎
17	1月 8日(4)	PMTCTechnique 相互実習	ユニット
18	1月15日(4)	PMTCTechnique 相互実習	ユニット
19	1月22日(4)	モデル実習に向けて(総復習 オリ)	基礎
20	2月 4日(6)	相互実習 / 総復習	ユニット
21	2月12日(4)	スケーリング モデル	ユニット
22	2月17日(2)	試験	

学 科	授業科目	担当教員名	実務経験
歯科衛生士科	歯周病予防処置Ⅱ	竹内麻莉	有
学 年	学 期	単位数(時間数)	
2	前期	2(74)	
授業の目的			
<p>疾病予防、健康増進に果たす歯科予防処置の効果を十分認識し、1年次に習得したシクルスケーラーにプラスして、キュレットスケーラーの操作法を習得し、一連の流れの中でのアプローチ・施術が出来るようにする。</p>			
行動目標			
<p>1. キュレットスケーラーの操作法を習得する。 2. 歯石除去に際しての観察法を再確認する。 3. 短時間で確実な歯石沈着状態の把握ができる。(エクスプローイング) 4. 短時間で確実な歯周ポケット観察法を習得する。(プロービング) 5. キュレットスケーラーのシャープニング法を習得する。</p>			
成績評価・検定			
<p>講義終了時に行う試験の得点に実習の実技評価も加味し、総合的に評価する。 (60点以上得点した者を合格とする)</p>			
教科書・参考書		最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」(医歯薬出版)	
回数	月日(時間数)	授 業 内 容	
1	4月 8日(4)	歯石除去の流れの確認、シクルスケーラーの操作法復習	基礎
2	4月15日(4)	キュレットスケーラー種類、基本的操作法 模型実習	基礎
3	4月22日(4)	キュレットスケーラー部位別操作法13-23 43-33	基礎
4	5月10日(2)	キュレットスケーラー部位別操作法47-44	基礎
5	5月17日(4)	キュレットスケーラー部位別操作法34-37	基礎
6	5月21日(2)	キュレットスケーラー部位別操作法実習 17-14	基礎
7	5月24日(4)	キュレットスケーラー部位別操作法実習24-27	基礎
8	5月28日(2)	キュレットスケーラー部位別操作法実習総復習	基礎
9	5月31日(4)	診査復習 キュレットスケーラーシャープニング	基礎
10	6月 3日(4)	マネキン評価 相互実習オリエンテーション	基礎・ユニット
11	6月 7日(4)	診査相互実習1(硬組織 プロービング エクスプローイング)	ユニット
12	6月14日(4)	診査相互実習2(硬組織 プロービング エクスプローイング)	ユニット
13	6月21日(4)	キュレット相互実習1	ユニット
14	6月24日(4)	キュレット相互実習2	ユニット
15	7月 1日(4)	キュレット相互実習3	ユニット
16	7月 5日(4)	キュレット相互実習4	ユニット
17	7月10日(4)	キュレット相互実習5	ユニット
18	7月17日(4)	キュレット相互実習6	ユニット
19	7月22日(4)	PMTC基礎実習	基礎
20	7月24日(4)	PMTC相互実習	ユニット

学 科	授業科目	担当教員名	実務経験
歯科衛生士科	歯周病予防処置Ⅱ	竹内麻莉	有
学 年	学 期	単位数(時間数)	
2	後期	1(32+2=34)	
授業の目的			
<p>疾病予防、健康増進に果たす歯科予防処置の効果を十分認識し、1年次に習得したシクルスケーラーにプラスして、キュレットスケーラーの操作法を習得し、一連の流れの中でのアプローチ・施術が出来るようにする。</p>			
行動目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. キュレットスケーラーの操作法を習得する。 2. 歯石除去に際しての観察法を再確認する。 3. 短時間で確実な歯石沈着状態の把握ができる。(エキスポローイング) 4. 短時間で確実な歯周ポケット観察法を習得する。(プロービング) 5. 歯面研磨法及びPMTCの効率のよいテクニックを習得する。 6. 超音波スケーラー・エアースケーラーの操作法を習得する。 7. キュレットスケーラーのシャープニング法を習得する。 8. 実際の患者さんをモデルとし、ケースに応じた施術法を学ぶ。 			
成績評価・検定			
<p>講義終了時に行う試験の得点に実習の実技評価も加味し、総合的に評価する。 (60点以上得点した者を合格とする)</p>			
教科書・参考書		最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」(医歯薬出版)	
回数	月日(時間数)	授 業 内 容	
1	9月 3日(4)	超音波スケーラー基礎実習	基礎
2	9月 9日(4)	超音波スケーラー相互実習	ユニット
3	9月20日(4)	超音波スケーラー相互実習	ユニット
4	9月27日(4)	モデル実習に向けて	基礎
5	9月30日(4)	総合実習	ユニット
6	10月 8日(3)	モデル実習1	ユニット
7	10月11日(1)	モデル実習1	ユニット
8	10月15日(3)	モデル実習2	ユニット
9	10月18日(1)	モデル実習2	ユニット
10	10月29日(3)	モデル実習3	ユニット
11	11月 1日(1)	モデル実習3	ユニット
12	11月12日(2)	試験	
13			
14			

学 科	授業科目	担当教員名	実務経験
歯科衛生士科	歯科保健指導論 I	呉羽かおり	有
学 年	学 期	単位数(時間数)	
1	前期	1(46)	
授業の目的	多様化するニーズに対応した歯科保健指導を行えるよう、専門知識と技術及びカウンセリング能力を身につける。		
行動目標	1. 歯科保健指導の概要を理解する。 2. 口腔の基礎知識を理解する。 3. 口腔の観察法を習得する。 4. 自身の口腔清掃法を習得する。		
成績評価・検定	講義終了時に行う試験の得点に、レポート・プレテストの結果及び実技・演習等を加味し総合的に評価する。(60点以上得点した者を合格とする)		
教科書・参考書	最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論 歯科保健指導」 「歯肉を見る・歯肉を読む」 (医歯薬出版)		
回数	月日(時間数)	授 業 内 容	
1	4月10日(2)	歯科保健指導総論	
2	4月18日(2)	健康の概念 予防の概念	
3	4月25日(4)	口腔の基礎知識	
4	5月 9日(4)	口腔の基礎知識	
5	5月17日(2)	口腔の基礎知識	
6	5月20日(2)	口腔の観察法(初期病変の理解)	
7	6月 6日(4)	口腔の観察法(初期病変の理解)	
8	6月 7日(2)	口腔の観察法(初期病変の理解)	
9	6月14日(4)	口腔内の観察と表現方法	
10	6月20日(4)	口腔内の観察と表現方法	
11	6月28日(4)	口腔観察相互実習	ユニット
12	7月 1日(2)	口腔観察相互実習振り返り	基礎
13	7月11日(4)	口腔観察相互実習	ユニット
14	7月19日(2)	口腔清掃法 口腔清掃用具の種類と用途	基礎
15	7月25日(2)	口腔清掃法 手用歯ブラシを用いたブラッシング方法	基礎
16	7月26日(2)	口腔清掃法 手用歯ブラシを用いたブラッシング方法	基礎

学 科	授業科目	担当教員名	実務経験
歯科衛生士科	歯科保健指導 I	呉羽かおり	有
学 年	学 期	単位数(時間数)	
1	後期	2(84+2=86)	
授業の目的			
多様化するニーズに対応した歯科保健指導をおこなうために、専門知識と技術を身につける。			
行動目標			
1. 口腔清掃法を習得する。 2. 自身の口腔管理ができる。 3. 保健指導実施のための基礎知識を身につける。 4. 歯科衛生過程の進め方を理解する。 5. 歯科衛生アセスメントの情報収集について理解する。			
成績評価・検定			
講義終了時に行う試験の得点に、レポート・プレテストの結果及び実技・演習等を加味し総合的に評価する。(60点以上得点した者を合格とする)			
教科書・参考書		最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論 歯科保健指導」 「歯肉を見る・歯肉を読む」 (医歯薬出版)	
回数	月日(時間数)	授 業 内 容	
1	9月 3日(2)	前期復習	
2	9月 6日(2)	口腔清掃法(手用歯ブラシを用いたブラッシング方法の知識)	基礎
3	9月 9日(2)	口腔清掃法(手用歯ブラシを用いたブラッシング方法の知識)	基礎
4	9月13日(4)	100%磨き実習	ユニット
5	9月20日(2)	口腔清掃法(フロッシング方法)	基礎
6	9月27日(4)	100%磨き実習	ユニット
7	9月30日(2)	100%磨き まとめ	基礎
8	10月 4日(2)	口腔清掃法(補助清掃用具を用いた口腔清掃法の知識)	基礎
9	10月10日(2)	口腔清掃法(歯磨剤 洗口法)	基礎
10	10月17日(4)	口腔清掃法(超音波歯ブラシを用いた口腔清掃法) / う蝕の基礎知識(臨床的特徴)	基礎/223
11	10月25日(8)	卒業研究発表会	
12	10月30日(4)	歯科保健指導実施のための基礎知識	
13	10月31日(2)	歯科衛生過程の進め方	
14	11月 6日(2)	歯科衛生アセスメント(情報収集)	
15	11月14日(4)	歯科衛生アセスメント(情報収集)	
16	11月21日(6)	歯科衛生アセスメント(口腔内写真)	基礎/ユニット
18	11月29日(4)	歯科衛生アセスメント(う蝕活動性試験について)	
19	12月 6日(4)	歯科衛生アセスメント(情報処理)	
20	12月 9日(2)	歯科衛生アセスメント(う蝕活動性試験の活用法)	
21	12月13日(4)	ライフステージの理解 青年期の基礎知識	
22	12月18日(2)	青年期の歯科保健指導	
23	1月 7日(2)	ライフステージの理解 妊産婦期・乳幼児期の基礎知識	
24	1月20日(2)	ライフステージの理解 妊産婦期・乳幼児期の基礎知識	
25	1月27日(2)	ライフステージの理解 妊産婦期・乳幼児期の基礎知識	
26	2月 3日(2)	妊産婦期・乳幼児期の歯科保健指導	
27	2月 5日(2)	妊産婦期・乳幼児期の歯科保健指導	
28	2月 7日(2)	妊産婦期・乳幼児期の歯科保健指導	
29	2月10日(2)	まとめ	
	2月14日(2)	まとめ	
30	2月20日(2)	試験	

学 科	授業科目	担当教員名	実務経験
歯科衛生士科	歯科保健指導Ⅱ	松井馨子	有
学 年	学 期	単位数(時間数)	
2	前期	2(80)	
授業の目的			
多様化するニーズに対応した歯科保健指導をおこなうために、歯科衛生過程の知識と技術を習得する。			
行動目標			
1. 正しく情報収集をすることができる。 2. 情報に基づいた対象の把握ができる。 3. 対象者に応じた歯科保健指導計画を立案することができる。 4. 対象者に適した口腔清掃指導ができる。 5. 口腔の変化について観察・評価ができる。 6. 症例検討・発表の仕方を理解する。 7. 業務記録の目的を理解し、記録方法を学ぶ。			
成績評価・検定			
講義終了時に行う試験の得点に、レポート・プレテストの結果及び日頃の授業態度等を加味し評価する。(60点以上得点した者を合格とする)			
教科書・参考書		最新歯科衛生士教本「口腔保健管理」「歯科予防処置論・歯科保健指導論」(医歯薬出版) 「歯肉を見る・歯肉を読む」(医歯薬出版)	
回数	月日(時間数)	授 業 内 容	
1	4月18日(2)	2年前期保健指導について	
2	4月10日(2)	歯科衛生アセスメント復習 情報収集(ブランクコントロール 主観的情報)	
3	4月12日(2)	歯科衛生アセスメント復習 情報収集(ブランクコントロール 客観的情報)	
4	4月15日(2)	歯科衛生アセスメント復習 (情報処理) 口腔内写真知識復習	
5	4月17日(4)	歯科衛生アセスメント(口腔内写真撮影相互実習)	ユニット
6	4月23日(2)	歯科衛生過程 診断・計画	
7	4月26日(4)	歯科衛生過程 診断・計画 / 業務記録(目的・方法)	
8	5月7日(2)	業務記録(目的・方法)	
9	5月10日(2)	歯科衛生過程相互実習オリエンテーション	
10	5月13日(4)	歯科衛生過程相互実習オリエンテーション	
11	5月20日(4)	歯科衛生相互実習①(情報収集)	ユニット
12	5月27日(2)	歯科衛生アセスメント(情報処理・分析)、歯科衛生診断の実際	
13	5月28日(2)	歯科衛生アセスメント(情報処理・分析)、歯科衛生診断の実際	
14	6月3日(2)	歯科衛生計画の実際	
15	6月5日(2)	歯科衛生計画の実際	
16	6月7日(4)	歯科衛生相互実習②(介入)	ユニット
17	6月10日(2)	歯科衛生アセスメント(情報処理・分析)の実際	
18	6月11日(2)	歯科衛生計画の実際	
19	6月17日(4)	歯科衛生相互実習③(介入)	ユニット
20	6月18日(2)	歯科衛生アセスメント(情報処理・分析)の実際	
21	6月25日(4)	歯科衛生相互実習④(評価のための情報収集)	ユニット
22	6月28日(2)	歯科衛生評価	
23	7月1日(2)	歯科衛生過程発表準備(オリ)	
24	7月3日(2)	歯科衛生過程相互実習発表準備	
25	7月8日(2)	歯科衛生過程相互実習発表準備	
26	7月9日(2)	歯科衛生過程相互実習発表準備	
27	7月12日(2)	歯科衛生過程相互実習発表準備	
28	7月16日(4)	歯科衛生過程相互実習発表準備 / 歯科衛生過程相互実習発表	
29	7月19日(2)	歯科衛生過程相互実習発表	
30	7月22日(2)	歯科衛生過程相互実習発表	
31	7月24日(2)	歯科衛生過程相互実習発表	
32	7月26日(2)	歯科衛生過程相互実習まとめ	

学 科	授業科目	担当教員名	実務経験
歯科衛生士科	歯科保健指導Ⅱ	松井馨子	有
学 年	学 期	単位数(時間数)	
2	後期	1(52+2=54)	
授業の目的			
多様化するニーズに対応した歯科保健指導をおこなうために、各ライフステージにおける歯科衛生過程の知識と技術を習得する。			
行動目標			
1. ライフステージごとの生活習慣・食習慣の把握ができる。 2. ライフステージにあわせた歯科衛生計画立案ができる。 3. ライフステージごとの口腔清掃法、栄養指導のポイントを説明することができる。 4. 食習慣と口腔保健の関連について理解する。 5. 歯科保健指導におけるコミュニケーションについて理解する。			
成績評価・検定			
講義終了時に行う試験の得点に、レポート・プレテストの結果及び日頃の授業態度等を10%以内で加味し評価する(60点以上得点した者を合格とする)			
教科書・参考書		最新歯科衛生士教本「口腔保健管理」「歯科予防処置論・歯科保健指導論」(医歯薬出版) 「歯肉を見る・歯肉を読む」(医歯薬出版)	
回数	月日(時間数)	授 業 内 容	
1	9月2日(2)	歯科衛生過程の進め方復習 演習方法と書面化	
2	9月10日(2)	学齢期の歯科保健指導の知識	
3	9月13日(2)	学齢期の歯科保健指導の知識	
4	9月20日(2)	学齢期の歯科保健指導の演習	
5	9月25日(2)	学齢期の歯科保健指導の演習	
6	10月1日(4)	学齢期の歯科保健指導の演習	
7	10月8日(2)	幼児期の歯科保健指導の知識	
8	10月15日(2)	幼児期の歯科保健指導の知識	
9	10月25日(8)	卒業研究発表会	
10	10月28日(2)	成人期の歯科保健指導の知識	
11	11月18日(2)	成人期の歯科保健指導の知識	
12	11月22日(2)	成人期の歯科保健指導の知識	
13	11月26日(4)	成人期の歯科保健の演習	
14	11月29日(2)	成人期の歯科保健の演習	
15	12月3日(2)	成人期の歯科保健の演習	
16	12月5日(4)	成人期の歯科保健指導の演習	
17	12月9日(4)	成人期の歯科保健指導の演習	
18	12月11日(4)	成人期の歯科保健指導の演習 / 歯科衛生過程まとめ	
19	12月16日(2)	試験	

学 科	授業科目	担当教員名	実務経験
歯科衛生士科	栄養指導 I	平野 澄子	有
学 年	学 期	単位数(時間数)	
1	後期	2(30+2)	
授業の目的			
健康は様々な栄養素が相互に関係し保たれている事を認識し、栄養に関する基礎的事項を身につけ、各ステージにおける栄養指導のポイントを理解する。			
行動目標			
1. 現在の食生活の実態把握し、食を取巻く問題点について理解する。 2. 栄養素の消化吸収のメカニズムを理解する。 3. 食事摂取基準について理解する。 4. 各栄養素について基本的事項を理解する。 5. 食生活とう蝕・咀嚼の関連性を理解する。 6. 食品の栄養学的特徴を理解する。			
成績評価・検定			
講義終了時に行う試験の得点に、レポート・プレテストの結果及び日頃の授業態度等を10%以内で加味し評価する。(60点以上得点した者を合格とする)			
教科書・参考書		最新歯科衛生士教本「栄養と代謝」(医歯薬出版) プリント 食品成分表(女子栄養大出版)	
回数	月日(時間数)	授 業 内 容	
1	10月 1日(2)	栄養学を学ぶ目的・意識 栄養の基礎知識 自分の食生活診断	
2	10月 7日(2)	栄養素の消化吸収	
3	10月15日(2)	栄養素の役割 鉄の吸収 食事摂取基準	
4	10月21日(2)	食事摂取基準 摂取エネルギーを知る	
5	10月28日(2)	食事摂取基準 栄養素の働き	
6	11月11日(2)	糖質の種類 食品との関わり タンパク質の栄養的意味	
7	11月18日(2)	タンパク質	
8	11月25日(2)	脂質	
9	12月 2日(2)	ビタミン	
10	12月 9日(2)	ミネラル	
11	12月16日(2)	ミネラル 水分の栄養的意味	
12	1月20日(2)	食物繊維	
13	1月27日(2)	咀嚼と食生活 う蝕と食生活	
14	2月 3日(2)	甘味食品の摂取法	
15	2月10日(2)	食品の栄養学的特徴	
16	2月18日(2)	試験	

学 科	授業科目	担当教員名	実務経験
歯科衛生士科	歯科診療補助 I	塚原実佳	有
学 年	学 期	単位数(時間数)	
1	前期	1(64)	
授業の目的			
歯科診療補助業務を理解し、実践するための知識と技術を習得する。			
行動目標			
1. 歯科診療補助の法的位置づけを説明し、内容を述べるができる。 2. 歯科医院の診療の流れを理解する。 3. 医療安全の意味を理解する。 4. 共同動作(ポジショニング、バキュームテクニック、ライティング、受け渡し)を理解し、口腔洗浄ができる。			
成績評価・検定			
講義終了時に行う試験の得点に、レポート・プレテストの結果及び日頃の授業態度等を10%以内で加味し評価する(60点以上得点した者を合格とする)			
教科書・参考書			
最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論」 最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論 歯科機器」 最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論 歯科材料」 「歯科スタッフのマナーと実践マニュアル」			
回数	月日(時間数)		
1	4月 8日(2)	歯科診療補助の法的位置づけ	
2	4月12日(2)	歯科診療所でのマナー	
3	4月15日(4)	歯科医院の診療の流れ 歯科衛生士の役割	
4	4月22日(4)	医療安全と感染予防対策 手指消毒	基礎
5	5月 8日(2)	滅菌と消毒	
6	5月10日(2)	滅菌と消毒	
7	5月16日(2)	歯科診療室の基礎知識	
8	5月24日(2)	歯科診療室の基礎知識	ユニット
9	5月27日(4)	診療室の機械器具取扱い実習	ユニット
10	6月 7日(4)	共同動作の基本(概念 ポジショニング ライティング 受渡し バキューム・3way操作)	基礎
11	6月10日(4)	実習室マニュアル 共同動作基本実習	基礎/ユニット
12	6月14日(2)	共同動作基本実習	基礎
13	6月24日(4)	共同動作基本実習	ユニット
14	7月 2日(2)	共同動作基本実習	ユニット
15	7月 5日(6)	共同動作基本実習/相互実習①	基礎/ユニット
16	7月 9日(2)	滅菌消毒・実習室マニュアル復習	
17	7月12日(6)	共同動作相互実習②	ユニット
18	7月18日(4)	共同動作相互実習③	ユニット
19	7月22日(4)	共同動作実習(総合実習)	ユニット
20	7月23日(2)	共同動作まとめ	

学 科	授業科目	担当教員名	実務経験
歯科衛生士科	歯科診療補助 I	塚原実佳	有
学 年	学 期	単位数(時間数)	
1	後期	2(86+2=88)	
授業の目的			
歯科診療補助業務を理解し、実践するための知識と技術を習得をする。			
行動目標			
1. 診査項目が理解できる。 2. アルジネート印象材の練和ができる。 3. 主要歯科材料を取り扱うことができる。 4. 保存修復の処置流れを説明できる。 5. 歯内療法の処置流れを説明できる。			
成績評価・検定			
講義終了時に行う試験の得点に、レポート・プレテストの結果及び日頃の授業態度等を10%以内で加味し評価する(60点以上得点した者を合格とする)			
教科書・参考書		最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論」 最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論 歯科機器」 最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論 歯科材料」 (医歯薬出版) 「歯科スタッフのマナー実践マニュアル」 (口腔保健協会)	
回数	月日(時間数)	授 業 内 容	
1	9月 3日(2)	前期復習	
2	9月10日(2)	主要歯科材料の種類と取扱い法(歯科材料の基礎知識・印象材)	
3	9月12日(4)	アルジネート印象材取扱い法①	基礎
4	9月17日(2)	アルジネート印象材取扱い法②	基礎
5	9月26日(4)	アルジネート印象材取扱い法③ / 診査基礎知識	基礎
6	10月 3日(4)	診査基礎知識	
7	10月10日(2)	診査基礎知識	
8	10月18日(4)	硬組織診査相互実習①	ユニット
9	10月21日(4)	硬組織診査相互実習②	ユニット
10	10月28日(4)	仮封材とは 種類と特徴 仮封材の取扱い法	基礎
11	11月 6日(2)	仮封材の取扱い法	基礎
12	11月 7日(4)	合着材とは 種類と特徴 / 合着材の取扱い法	基礎
13	11月13日(4)	合着材の取扱い法	基礎
14	11月20日(4)	保存修復の処置流れ / 直接修復法とは	
15	11月27日(2)	直接修復法の流れ	
16	11月28日(4)	直接修復法の流れ 使用材料	
17	12月 2日(2)	間接修復法とは	
18	12月 4日(2)	間接修復法の流れ	
19	12月11日(2)	間接修復法の流れ	
20	12月13日(2)	間接修復法の流れ	
21	12月18日(2)	間接・直接修復復習・まとめ	
22	1月17日(2)	歯内療法の処置流れ	
23	1月20日(4)	歯髄保存療法とは 流れと使用薬材 / 歯髄除去療法(生活歯髄切断法の流れと使用器材)	
24	1月24日(2)	歯髄除去療法(麻酔抜髄法の流れと使用器材)	
25	1月27日(4)	感染根管療法の流れと使用機材	
26	1月31日(2)	感染根管療法の流れと使用機材	
27	2月 3日(4)	歯内療法総復習	
28	2月 7日(2)	保存修復の流れまとめ	
29	2月10日(2)	復習・まとめ	
30	2月14日(2)	復習・まとめ	
31	2月20日(2)	試験	

学 科	授業科目	担当教員名	実務経験
歯科衛生士科	歯科診療補助Ⅱ	松井馨子	有
学 年	学 期	単位数(時間数)	
2	前期	2(82)	
授業の目的			
歯科診療における補助業務を理解し実践するため、歯科診療および治療の流れを理解し、必要な手技を身につける。			
行動目標			
1. 共同動作のポイントを理解し、実践できる。 2. 使用頻度の高い歯科材料の特性を理解し、適正に取り扱うことができる。 3. 適正な時間内に正確な口腔内診査を行うことができる。 4. スタディーモデルの作製のための印象採得及び模型作製ができる。 5. 補綴処置、外科処置の流れを理解する。			
成績評価・検定			
講義終了時に行う試験の得点に、レポート・プレテストの結果及び日頃の授業態度等を10%以内で加味し評価する(60点以上得点した者を合格とする)			
教科書・参考書		最新歯科衛生士教本「歯科診療補助」 「歯科材料の知識と取扱い」「歯科器械の知識と取扱い」 (医歯薬出版)	
回数	月日(時間数)	授 業 内 容	
1	4月9日(2)	1年時の復習 2年時の授業の流れ	
2	4月12日(4)	共同動作相互実習	ユニット
3	4月16日(2)	歯科材料の知識復習	基礎
4	4月17日(2)	材料の取扱い(仮封 仮着 合着)	基礎
5	4月24日(2)	診査復習 医療面接	
6	4月26日(2)	診査復習 硬組織診査	
7	5月8日(2)	診査復習 レントゲン撮影(撮影実習に向けて)	基礎
8	5月13日(2)	レントゲン実習まとめ	
9	5月17日(2)	スタディーモデル基礎知識(石膏の取扱い含む)	基礎
10	5月20日(2)	スタディーモデル(アルジネート印象材の取扱い)	基礎
11	5月24日(2)	スタディーモデル(アルジネート印象材の取扱い)	基礎
12	5月27日(2)	スタディーモデル(アルジネート印象材の取扱い)	基礎
13	5月31日(4)	スタディーモデル相互実習	ユニット・基礎
14	6月4日(4)	スタディーモデル台着け	基礎
15	6月10日(2)	保存修復処置流れ復習	基礎
16	6月11日(2)	保存修復処置流れ復習	基礎
17	6月14日(2)	歯肉排除 圧排・隔壁含む	基礎
18	6月17日(2)	歯周外科処置流れ	基礎
19	6月18日(2)	補綴処置流れ 支台築造	基礎
20	6月19日(2)	補綴処置流れ クラウンブリッジ	基礎
21	6月21日(2)	補綴処置流れ クラウンブリッジ	
22	6月25日(2)	補綴処置流れ PD	基礎
23	6月26日(2)	補綴処置流れ PD	基礎
24	6月28日(4)	補綴処置流れ FD	
25	7月2日(4)	抜歯処置流れ	基礎
26	7月5日(2)	難抜歯処置流れ	基礎
27	7月8日(4)	外科処置の流れ	基礎
28	7月9日(4)	外科処置の流れ	基礎
29	7月17日(4)	共同動作 診査復習(実習)	ユニット
30	7月19日(2)	材料の知識と取扱い	基礎
31	7月23日(2)	材料の知識と取扱い	基礎
32	7月26日(4)	前期まとめ	

学 科	授業科目	担当教員名	実務経験
歯科衛生士科	歯科診療補助Ⅱ	松井馨子	有
学 年	学 期	単位数(時間数)	
2	後期	1(48+2=50)	
授業の目的			
歯科診療における診療補助業務を理解し実践するために、歯科診療と歯科治療の流れを十分理解し必要な手技について習得する。			
行動目標			
1. 診療の流れを理解し、患者への配慮ができる。 2. 各処置について順序立てたセッティングができる。 3. 各処置流れに対応したスムーズな診療補助法について理解する。			
成績評価・検定			
講義終了時に行う試験の得点に、レポート・プレテストの結果及び日頃の授業態度等を10%以内で加味し評価する(60点以上得点した者を合格とする)			
教科書・参考書		最新歯科衛生士教本「歯科診療補助」 「歯科材料の知識と取扱い」「歯科器械の知識と取扱い」 (医歯薬出版)	
回数	月日(時間数)	授 業 内 容	
1	9月 3日(2)	診療の流れと患者配慮	
2	9月 6日(2)	ラバーダム防湿の基礎知識	
3	9月10日(2)	ラバーダム防湿の模型実習	基礎
4	9月18日(4)	ラバーダム防湿実習	ユニット
5	10月 1日(2)	直接修復のセッティング 歯科衛生士の役割	
6	10月 4日(2)	直接修復のセッティング 歯科衛生士の役割	
7	10月23日(2)	間接修復のセッティング 歯科衛生士の役割	基礎
8	10月29日(2)	間接修復のセッティング 歯科衛生士の役割	基礎
9	10月30日(2)	間接修復のセッティング 歯科衛生士の役割	基礎
10	11月 5日(2)	歯髄除去療法のセッティング 歯科衛生士の役割	基礎
11	11月 8日(2)	感染根管処置 根管充填のセッティング 歯科衛生士の役割	基礎
12	11月15日(2)	支台築造のセッティング 歯科衛生士の役割	基礎
13	11月20日(4)	クラウンブリッジのセッティング 歯科衛生士の役割	基礎
14	11月25日(4)	クラウンブリッジのセッティング 歯科衛生士の役割 / 義歯のセッティング 歯科衛生士の役	基礎
15	12月 2日(4)	抜歯・何抜歯のセッティング 歯科衛生士の役割	基礎
16	12月 6日(2)	歯周外科処置のセッティング 歯科衛生士の役割	基礎
17	12月10日(6)	共同動作セッティングまとめ / 小児歯科のセッティング 歯科衛生士の役割	基礎
18	12月13日(2)	矯正歯科のセッティング 歯科衛生士の役割	基礎
19	12月17日(2)	試験	

学 科	授業科目	担当教員名	実務経験
歯科衛生士科	摂食嚥下・口腔ケア	五島秀樹 寺嶋綾乃	有
学 年	単位数(時間数)		
2	後期	2(36+4+2=42)	
授業の目的			
要介護高齢者について理解した上で、食物摂取や嚥下に関する諸器官の機能回復及び保持増進について学び、歯科衛生士の専門性を活かした口腔ケアができるようにする。			
行動目標			
1. 食物摂取や嚥下に関する諸器官の機能・メカニズムを理解する。 2. 食物、食物の形態を学び正しい摂食・嚥下法を学習する。 3. 高齢者・要介護者に対する口腔機能向上を含めた口腔ケアができるようになる。 4. 病院における口腔ケアの必要性を理解する。			
成績評価・検定			
講義終了時に行う試験の得点に、レポート・プレテストの結果及び日頃の授業態度等を10%以内で加味し評価する(60点以上得点した者を合格とする)			
教科書・参考書		歯科衛生士のための摂食・嚥下リハビリテーション (医歯薬出版) PC プロジェクター 演習用器材	
回数	月日(時間数)	授 業 内 容	
1	9月 2日(4)	中枢神経の機能 リハビリテーション総論	
2	9月 9日(4)	食べる仕組み 口腔の構造 咀嚼筋の構造 唾液の作用 嚥下の5期 嚥下の仕組み	
3	9月30日(4)	摂食嚥下とは 摂食嚥下リハビリテーションにおける歯科衛生ケアプロセス 嚥下リハビリテーションと口腔ケア	
4	10月 7日(4)	摂食嚥下における間接・直接訓練 摂食嚥下に対する食指導・食支援 リスクマネジメント 摂食嚥下リハビリテーションにおける連携	
5	10月21日(4)	摂食嚥下の仕組み	
6	10月28日(4)	直接訓練法(開閉口 口腔周囲・舌筋 頬 咀嚼・送り込み アイスマッサージ 呼吸訓練 排痰法)	
7	11月11日(4)	直接訓練法 頸部聴診法	
8	11月18日(4)	嚥下食 直接訓練(代償的訓練法) 口腔ケア	
9	11月25日(4)	口腔ケアの実際手技・器材 (寺嶋先生)	ユニット
10	12月 2日(4)	口腔ケアの実際手技・器材の取組みと実践の場 周術期口腔ケア	
11	12月16日(2)	試験	

学 科	授業科目	担当教員名	実務経験
歯科衛生士科	介護学	畠山 仁美	有
学 年	学 期	単位数(時間数)	
2年	後期	1(12+2)	
授業の目的			
体験により高齢者の身体的特徴を理解する。また、基本的介護法を習得する。			
行動目標			
1. 高齢者の身体的特徴を理解する。 2. 演習により被介護者について理解する。 3. 基本的な介護法を習得する。			
成績評価・検定			
講義終了時に行う試験の得点に、レポート・プレテストの結果及び日頃の授業態度等を10%以内で加味し評価する(60点以上得点した者を合格とする)			
教科書・参考書		最新歯科衛生士教本「高齢者歯科疾患論」(医歯薬出版) 演習用器材	
回数	月日(時間数)	授 業 内 容	
1	10月31日(2)	介護の基本的な考え方 法的根拠に基づく介護	
2	11月 7日(2)	高齢者の身体的特徴 高齢者疑似体験 DVD「小規模多機能居宅介護」	
3	11月14日(2)	介護技術基本編 ①麻痺についての理解(立ち方 歩き方) ②視覚障害者の理解 ③ボディメカニクスの理解	
4	11月21日(2)	介護技術 ①車椅子の介助法 ②杖歩行の介助法	実習室
5	11月28日(2)	介護技術「衣服の着脱介助」 演習「元気な人の着方 右麻痺の人の着脱介助」	
6	12月 5日(2)	運動の重要性と廃用症候群 DVD「認知症高齢者啓発ビデオ」	
7	12月17日(2)	試験	

学 科	授業科目	担当教員名	実務経験
歯科衛生士科	臨地臨床実習Ⅱ	松井馨子	有
学 年	学 期	単位数(時間数)	
2	後期	6(240+80=320)	
授業の目的			
臨床の場を体験することにより各教科で学んだ内容について確認し、実践的理解を深める。 また、医療人としての自覚を促し、歯科衛生士として幅広い視野を身につけ、さらに良い人間関係を保つためのコミュニケーション能力を養う。			
行動目標			
1. 歯科診療の概要を理解する。 2. 歯科治療の流れを理解し、歯科衛生士業務について実感的に理解する。 3. 歯科治療の流れを理解し、病院 小児歯科 矯正歯科 特殊診療科における歯科衛生士の業務を理解する。 4. 医療人としての基本的対応法を身につける。 5. 患者様に寄り添う事の出来る人間性を養う。			
成績評価・検定			
実習終了時に各実習施設指導者により行う。			
教科書・参考書			
週数	月日(時間数)	授 業 内 容	
28	10月 8日(1)	準備	
	10月11日(1)	準備	
29	10月15日(1)	準備	
	10月18日(1)	準備	
31	10月29日(1)	準備	
	11月 1日(1)	準備	
34	11月18/20日(4)	オリエンテーション	
35	11月26日(2)	オリエンテーション	
	11月27日(8)	診療所現地オリエンテーション	
36	12月 3日(4)	準備	
	12月 4日(8)	松本歯科大学病院現地オリエンテーション	
	12月 6日(2)	準備	
37	12月 9日(4)	準備	
	12月11日(4)	準備	
	12月12日(4)	準備	
	12月13日(4)	準備	
38	12月18日(2)	準備	
	12月19日(6)	準備	
	12月20日(4)	準備	
41	1月 7日(8)	準備	
	1月 8日(8)	準備	
	1月 9日(8)	準備	
42-47	1月14~2月1日(112) 2月3日~22日(112)	臨床実習1(診療所) 臨床実習2(松本歯科大学病院) を3週間づつで交代	
48	2月25日(6)	実習まとめ・報告会	
	2月26日(6)	実習まとめ・報告会	
	2月27日(6)	実習まとめ・報告会	

学 科	授業科目	担当教員名	実務経験
歯科衛生士科	臨床実習Ⅲ	正村昭子	有
学 年	学 期	単位数(時間数)	
3	前期～後期	12(428+121=549)	
授業の目的			
1. 2年次に習得した知識と技術を再確認し、臨床における歯科衛生士の業務を習得する。また医療人としての自覚を養い、症例に応じたコミュニケーション能力及びコンピテンシーを身につける。			
行動目標			
1. 総合病院口腔外科における歯科衛生士の業務を習得する。 2. 歯科診療所における歯科衛生士の業務を習得する。 3. 医療人としての基本的対応法を身につける。 4. 患者様に寄り添う事の出来る人間性を養う。			
成績評価・検定			
実習終了時に各実習施設指導者により評価を行う			
教科書・参考書			
週	月日(時間数)	授 業 内 容	
2	4/8 9 (4)	臨地臨床実習オリエンテーション	
	4/11 12 (4)	臨床実習準備	
3	4/15 16 (4)	臨床実習準備	
4	4/24 (16)	臨床実習準備	
6	5/8 10 (4) 5/7 9(12)	臨床実習準備	
7	5/13 (4) 5/14 16(12)	臨床実習準備	
8	5/21 (8)	診療所実習現地オリエンテーション	
	5/22 (4)	長野赤十字病院現地オリエンテーション	
	5/20 23 (4)	臨床実習準備	
9	5/27-31 (14)	臨床実習準備	
10-27	6/4~10/5 (304+112)	長野日赤 診療所実習 2カ所	
11-23	6/10~9/6(29)		
28	10/9-11 (14)	臨床実習まとめ	

学 科	授業科目	担当教員名	実務経験
歯科衛生士科	臨地実習Ⅲ(乳幼児・成人・高齢者)	正村昭子	有
学 年	学 期	単位数(時間数)	
3	前期～後期	0.5(79)	
授業の目的			
地域歯科保健における歯科衛生士の役割を理解し、他職種との連携について学ぶ。			
行動目標			
1. 乳幼児健診の意義・内容を学び、歯科衛生士の役割について理解を深める。 2. 成人健診の意義・内容について学び、歯科衛生士の役割について理解を深める。 3. 高齢者施設における口腔ケア支援の実際について学び、歯科衛生士の役割について理解を深める。			
成績評価・検定			
各実習終了時学生指導者間でのまとめ反省会を持つと同時に全実習終了時にまとめを行い評価に変える。			
教科書・参考書			
週	月日(時間数)	授 業 内 容	
全 体	4/10(2)	臨地実習オリエンテーション	
成 人 (2 2)	4/11(2)	オリエンテーション	
	4/17(4)	総合健康センター現地オリ	
	4/23(8)	総合健康センター実習(A)	
	4/25	総合健康センター実習(B)	
	5/7	総合健康センター実習(C)	
	5/9	総合健康センター実習(D)	
	5/14	総合健康センター実習(E)	
	5/16	総合健康センター実習(F)	
	5/17(6)	準備・まとめ	
高 齢 者 (2 4)	4/17(2)	オリエンテーション	
	4/18(4)	高齢者 特別講義	
	5/23(6)	高齢者 施設見学	
	6/10～ 9/20(12)	実習	
		まとめ	
乳 幼 児 (1 8)	4/22(2)	オリエンテーション	
	4/26(2)	乳幼児特別講義	
	5/8(2)	乳幼児特別講義	
	6/10～ 9/20(12)	乳幼児臨地実習	
準備まとめ(9)	6/10～9/20(9)	臨地実習前後 準備・記録	
全体(4)	10/9(4)	臨地実習まとめ	

学 科	授業科目	担当教員名	実務経験
歯科衛生士科	情報処理 I	村田智子	有
学 年	学 期	単位数(時間数)	
1	後期	1(30)	
授業の目的			
現在の情報化社会において歯科衛生士業務を展開するにあたってのパソコン操作の基本的事項を身につけ、業務記録、患者管理、研究、症例発表等に活かす。			
行動目標			
1. タッチタイピングの習得と、Word2013の操作方法をマスターし、一般的な書類が作成できる。 2. PowerPoint2013を使用して、簡単なプレゼンテーション資料を作成する。			
成績評価・検定			
講義終了時に行う試験(60分)の得点に、日頃の授業態度等を10%以内で加味し評価する。(60点以上得点した者を合格とする)			
教科書・参考書		完全マスターWord 2013練習問題全308(noa出版) 30時間でマスタープレゼンテーション+パワーポイント2013(実教出版)	USBメモリー 201教室
回数	月日(時間数)	授 業 内 容	
1	9月 3日(2)	Word;起動・終了、日本語入力システムの使い方、文書の保存	
2	9月10日(2)	データのダウンロード、フォルダの作成 入力の基本	
3	9月17日(2)	ビジネス文書①	
4	9月24日(2)	ビジネス文書②	
5	10月 1日(2)	ビジネス文書③	
6	10月 8日(2)	ワードアート・図形・オンライン画像	
7	10月15日(2)	スマートアート グラフ作成	
8	10月29日(2)	確認と復習	
9	11月 5日(2)	プレゼンテーション概要 Power Pointの基本操作	
10	11月12日(2)	スライドの作成 マスターの使い方	
11	11月19日(2)	Power Pointの特徴的な機能	
12	11月26日(2)	プレゼンテーションのテクニック プレゼンテーションファイルの作成について	
13	12月 3日(2)	PowerPointを使用した資料作成①	
14	12月10日(2)	PowerPointを使用した資料作成②	
15	12月17日(2)	テスト	

学 科	授業科目	担当教員名	実務経験
歯科衛生士科	情報処理Ⅱ	村田智子	有
学 年	学 期	単位数(時間数)	
2	前期	1(30)	
授業の目的			
表計算ソフトExcel2013の基本的操作をマスターし、一般的な書類が作成できるよう学習する。			
行動目標			
エクセルの基本操作が出来る			
成績評価・検定			
講義終了時に行う試験(60分うち30分テキスト使用可)の得点に、レポート・プレテストの結果及び日頃の授業態度等を10%以内で加味し評価する。(60点以上得点した者を合格とする)			
教科書・参考書		繰返して慣れる！完全マスターExcel2013練習問題334題 (noa出版) USBメモリー 201教室	
回数	月日(時間数)	授 業 内 容	
1	4月 9日(2)	Excelの基本操作 データのダウンロード	
2	4月16日(2)	表の作成 印刷	
3	4月23日(2)	ビジネスで使用する計算 計算式、数式のコピー	
4	5月 7日(2)	関数の利用	
5	5月17日(2)	関数の利用	
6	5月21日(2)	関数の利用	
7	5月28日(2)	さまざまな書式	
8	6月 4日(2)	復習と確認	
9	6月11日(2)	グラフの作成	
10	6月18日(2)	データ分析 並べ替えとフィルター	
11	6月25日(2)	シートの活用	
12	7月 2日(2)	作業グループと3D集計	
13	7月12日(2)	復習と確認	
14	7月19日(2)	練習問題	
15	7月26日(2)	テスト	

学 科	授業科目	担当教員名	実務経験
歯科衛生士科	コミュニケーション I	松井 秀夫	有
学 年	学 期	単位数(時間数)	
1	前・後期	2(40)	
到達目標			
チーム医療の担い手として活躍するために、自己と向き合い、自分の強み、持ち味、隠された動機、大切にしている価値観に気づき、他者を受容する事の大切さを理解することにより、コミュニケーションの能力の基礎を身につける。			
行動目標			
1. 自分自身を知り、自分と他者の「感じ方」の違いを知り、コミュニケーションの前提を理解する。 2. 「EQ」を活用し、コミュニケーション能力の基礎を身につける。 3. 学校内や生活、アルバイトなどの毎日の「生活習慣」の中でEQを高める。			
成績評価・検定			
授業中の課題に対する発表に、授業態度等を10%以内で加味し評価する			
教科書・参考書	レジュメ 副読本EQ(感じる力)の磨き方 EQアセスメント		
回数	月日(時間数)	授 業 内 容	
1	4月 8日(2)	オリエンテーション:講師、学生の自己紹介、授業の目的・進め方について	
2	4月15日(2)	「コミュニケーション能力」と「EQ」の関わりについて学ぶ	
3	4月22日(2)	「SEQ」受検	
4	5月13日(2)	「SEQ」の検査結果とその見方①～3つの知性と24の素養について～	
5	5月20日(2)	「SEQ」の検査結果とその見方②～「WORK SHEET」の活用～	
6	5月27日(2)	個人フィードバックと自習①(自習は「WORK SHEET」作成)	
7	6月10日(2)	個人フィードバックと自習②	
8	6月17日(2)	「感情」と「EQ」の違いを知る	
9	6月24日(2)	「EQ」の基本は「感じる力」	
10	7月 1日(2)	「EQ」の活用は「伝える力」	
11	7月 8日(2)	「EQ」の応用は「知る力」	
12	7月22日(2)	夏休みに「EQ」を体験しよう～EQカレンダー作成～	
13	9月 2日(2)	「EQ」を開発するために①～ポキャブラリーを増やそう!～(グループワーク)	
14	9月 9日(2)	特別ゲスト授業(予定)小山菜穂子さん～コミュニケーションスキルとは～	
15	9月30日(2)	「EQ」を開発するために②～表情や態度を意識しよう～(グループワーク)	
16	10月 7日(2)	素養開発の実践(「WORK SHEET」作成)	
17	10月21日(2)	素養開発の実践(「WORK SHEET」作成)	
18	10月28日(2)	素養開発の実践(「WORK SHEET」作成)	
19	11月11日(2)	振り返りと期末レポートの課題について	
20	11月18日(2)	期末レポート作成・提出	

学 科	授業科目	担当教員名	実務経験
歯科衛生士科	コミュニケーションⅡ	松井 秀夫	有
学 年	学 期	単位数(時間数)	
2	前期	1(24)	
授業の目的			
チーム医療の担い手として、多職種と協働する上で医療人に必要な「EQ」を理解するとともに、患者様との信頼関係を築き、患者様に寄り添えるコミュニケーション能力を身につける			
行動目標			
1. 自己の「EQ特性」を理解し、課題となる「素養」開発に取り組む 2. チーム医療を行う上で歯科衛生士として必要なコミュニケーション能力を知り、開発していく 3. 医師やスタッフそして患者様との「ストレスフリー」な信頼関係を築くために必要な「EQ」の働きを理解し、習得する 4. EQを開発することで自己肯定感を高め、前向きな職業観を涵養する			
成績評価・検定			
期末課題レポート(90%以内)授業態度等(10%以内)で加味し評価する。 (60点以上得点した者を合格とする)			
教科書・参考書	レジュメ 副読本「EQ心の鍛え方」		
回数	月日(時間数)	授 業 内 容	
1	4月10日(2)	オリエンテーション～授業の狙い～	
2	4月17日(2)	「SEQ」受検	
3	4月24日(2)	「EQ」の理解～1年次の振り返り～	
4	5月 8日(2)	「SEQ」フィードバック(「WARK SHEET」)～グループワーク	
5	5月15日(2)	「SEQ」個人フィードバックと自習	
6	5月22日(2)	「SEQ」個人フィードバックと自習	
7	5月29日(2)	「自分がこれまで成長してきたこと、今後の課題」の整理	
8	6月 5日(2)	「自分のコミュニケーションスタイル」の検証と開発	
9	6月12日(2)	「コミュニケーションスキル」とは(グループワーク)	
10	6月19日(2)	「私が目指す歯科衛生士像や働き方」を思い描く(グループワーク)	
11	6月26日(2)	「EQ開発の目標づくり」と「EQ開発カレンダー」作成 期末レポートの課題について	
12	7月 3日(2)	期末課題レポート	

学 科	授業科目	担当教員名	実務経験
歯科衛生士科	歯科医療保険事務	塚原 実佳	有
学 年	学 期	単位数(時間数)	
2	後期	2(48)	
授業の目的			
医療従事者として必要な医療保険の基礎知識、診療録の整理、診療報酬請求事務について習得する。			
行動目標			
1. 社会保険のしくみを理解する 2. 医療保険制度を理解する 3. カルテの書き方を理解する 4. 歯科保険請求事務ができる			
成績評価・検定			
講義終了時に行う試験結果に歯科医療事務技能試験(学科:実技)の結果を加味し理解度を判定し、総合的に評価する。			
教科書・参考書		歯科医療事務テキスト(日本医療事務センター)	
回数	月日(時間数)	授 業 内 容	
1	9月4日(4)	医療事務とは 充填 画像診断の算定方法	
2	9月13日(4)	Inの算定方法 Pul FCK 投薬の算定方法	
3	9月17日(4)	Per 築造 ジャケット冠の算定方法 投薬 吸入鎮静法の算定方法	
4	9月24日(2)	その他の処置 歯冠修復の算定方法	
5	9月25日(2)	歯周疾患の算定方法	
6	9月27日(2)	歯周疾患の算定方法	
7	10月4日(4)	Brの算定方法 部分床義歯の算定方法	
8	10月8日(2)	全部床義歯の算定方法	
9	10月11日(2)	その他の算定方法	
10	10月18日(2)	基本診療料の加算 算定条件 特殊診療料(医学管理 在宅医療)	
11	10月28日(2)	特掲診療料(投薬 画像診断 処置及び手術、麻酔) 歯冠修復 傷病による治療と算定 知識	
12	11月1日(2)	欠損補綴 修理 再装着 未来院請求	
13	11月6日(2)	医療機関と薬局 医療保障制度	
14	11月11日(4)	保険給付 歯科医療事務の仕事 公費負担医療 カルテの表書とレセプト用紙への転記	
15	11月15日(2)	単位認定試験 過去問題	
16	11月19日(6)	過去問題	
17	11月22日(2)	過去問題	
	11月23日	歯科医療事務技能試験予定	

学 科	授業科目	担当教員名	実務経験
歯科衛生士科	手話	千野裕子・塚田文明	有
学 年	学 期	単位数(時間数)	
2	前期	1(32+2)	
授業の目的			
<p>耳の不自由な方が不安なく歯科診療を受けられるように聴覚障害について理解し、多様なコミュニケーション方法を学ぶ。 また、基礎的な手話および歯科関係の手話表現を習得する。</p>			
行動目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 聴覚障害および聴覚障害者について理解する 2. 多様なコミュニケーション方法を学ぶ 3. 手話の基礎表現(名前・指文字・数字・人物・時・住所・職業・趣味)を身につける 4. 歯科の手話(単語・場面会話)を習得する 5. 聴覚障害者とのコミュニケーションの実際を体験する 			
成績評価・検定			
<p>留意点:手話は「動く言葉・視る言葉」です。講師の表現をしっかりと見て、自分でも手・指・体をしっかり動かしながら覚えましょう。講義終了時に行う試験の得点に、レポート・毎授業後行う確認テスト及び日頃の授業態度等を10%以内で加味し評価します。(60点以上得点した者を合格とする)</p>			
教科書・参考書		「医療の手話シリーズ①手話で必見!医療のすべて〈外来編〉(全日本ろうあ連盟出版局) プリント 振返りシート	
回数	月日(時間数)	授 業 内 容	
1	4月9日(2)	手話で自己紹介	
2	4月16日(2)	聞こえの仕組みとコミュニケーション方法	
3	4月23日(2)	基礎表現:挨拶・名前・指文字	
4	5月7日(2)	基礎表現:数字・時	
5	5月15日(2)	基礎表現:人物表現 家族の紹介	
6	5月21日(2)	基礎表現:趣味・職業・住所	
7	5月22日(2)	中間試験(手話による1分間スピーチ)	
8	5月28日(2)	歯科の手話①	
9	6月6日(4)	(塚田T)聴覚障害者のくらし・歯科医院での実際	
10	6月11日(2)	歯科の手話②	
11	6月18日(2)	歯科の手話③	
12	6月27日(4)	(塚田T)診療室での会話	
13	7月2日(2)	受付での会話	
14	7月11日(4)	(塚田T) 復習 試験 (筆記・実技)	

